

アナログ再構成後の展開(4)

—TELEFUNKEN L61—

1. 始めに

前報(1)のアナログ再構成の経過を踏まえて TELEFUNKEN L61 により結果を検証します。

2. アナログシステム再構成後の試聴計画

アナログシステム再構成後の試聴は主として前報(1)で整理したように FAL C90EXW のシステムで行ってきましたが、システムを替えて実施します。

今回は、TELEFUNKEN L61 のシステムで行います。

横並びにシステムを替えて試聴を行う場合は、同一の音源を使用することが多いのですが、今回も、対象システムに最も適切に能力を発揮させたい音源を選択することとします。仮想アースへの接続は最適と思われる条件に設定します。

3. アナログシステム再構成後の試聴結果

今回選択した音源と再生システムは次のとおりです。

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24 の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

以上、LINN LP-12 再生

ARCHIV 28MA 0020 日本 POLYDOL

バッハ チェンバロ協奏曲

ピノック指揮 English Concert

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

以上、ThorensTD124 再生

TOKYO FM TFMLP1051-1053

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲

ピエール・フルニエ (Vc)

以上、Garad401 再生

24 の奇想曲の LINN LP-12 の再生では、IPC 1029 のソフトな再生音はベースとしてありますが、リアルな擦弦音の切れ味も出ています。

選帝侯のソナタの LINN LP-12 の再生では、IPC 1029 は大人しい再生ぶりの印象がありましたが、打鍵のインパクトも響きの良さも相当に出てきています。

チェンバロ協奏曲の ThorensTD124 の再生では、これまでになく、解像度の良いバロックアンサンブルと繊細なチェンバロの演奏が聴けます。

倍賞千恵子の ThorensTD124 の再生では、これまでになく、倍賞千恵子のボーカルが伸び伸びと歌い、バックの伴奏もよく弾みます。

チェロ組曲の Garad401 の再生では、ゲインが不足気味ですが、チェロの胴鳴りも出ていますし、フルニエの東京コンサートのライブ録音の雰囲気も出ています。

4. まとめ

LINN LP-12、ThorensTD124、Garad401 各システムに対して実施してきた対策の効果が TELEFUNKEN L61 のシステムにおいて確認できました。

以上